

## 西国第五番 紫雲山

御本尊／十一面千手千眼観世音菩薩 開基／行基

## 真言宗御室派 葛井寺

## 自ら消火する

山主 森快隆

この度、防災メーカーのY社が開発されました、『K／SMOKE

パネル』を本堂・護摩堂内に施工することにになりました。このパネルは、火災時には急激な燃焼を断ち切り、素早く消火する、というカリウムを主成分とした、薄くて軽い壁紙状のシート建材です。この製品が画期的なのは、300度を超える高温に遭うと、煙状のガスを放出し、スピーディーに、しかも無人で消火することです。

本堂内では国宝をはじめとする貴重な文化財を汚損する恐れのあるス

プリンクラーや消火液を使用するこ

とは出来ません。今回、文化財保護の観点から、最適な防火資材として導入していただきました。この防火工事のドキュメンタリー番組はTV大阪などでも広く報道されたところ

です。さて、一口に火と言っても仏様からいただく智火や浄火もあれば、お燈明や、法燈、などと神仏に捧げる火もあり、一番厄介なのが「三毒」という我々有情の心に潜む「煩惱の火」です。「煩惱の火は燃え易く消し難い。」とよく言われます。「三

毒」とは「貪」「瞋」「痴」を云い、これを開けば百八になると言われています。

「貪」(トン)とは貪欲。自分の持っていない物が欲しい、金が欲しい、美味しいものを食べたい、褒められたい、認められたい等々、欲を満たそうとすることに、際はありませぬ。毎朝五時のお勤めは寒くて辛い、昨夜は遅かったからもっと眠りたい等の煩惱が毎日のように出てきます。でも、もうすぐそこに永遠の眠りが近づいています。後わずかの命、生かしてもらっているのだから今日も頑張ろう、と日常の煩惱が悟らせてくれることもあるのです。

「瞋」(ジン)は瞋恚、怒りです。自分の欲求が妨げられると頭にきて、腹を立て、猛然と怒りの炎を立ち上らせてしまいます。近ごろお年寄りの逆切れが多くなったように思います。つまらぬことに怒り、あおり運転をするなどもその一例です。

「痴」(チ)は愚痴。無知より生じるねたみや恨みもこの範疇に入るかも知れません。なぜだか年を増すごとに気は短く、くどくなり、ついつい愚痴も多くなつてしまいます。これら「三毒」をお釈迦さまは「自

分の思い通りにならないこと。」と仰っています。

また徳川家康公の遺訓には『不自由を常と思えば不足なし』という言葉があります。何かと不自由さが付きまとうコロナ禍も約三年が過ぎようとするなか、いつの間にか、煩わしいマスク生活にも、三密の回避にも慣れました。知らず知らずのうちに気がつけば不自由な生活が『常』になったと言つてよいでしょう。

私達は思いのままにならない日常生活の不自由さを経験するうちに、「足るを知る」ことをコロナ禍から学び覚つたと思うのです。

